

社会科学学習指導案（地理的分野）

日 時 平成30年11月16日（金） 第3校時
対 象 1年2組（男子18名女子18名 計36名）
指導者 教 諭 川 上 慎 一 郎

1 単 元 「ヨーロッパ州」

2 単元の考察

本単元は、学習指導要領の地理的分野の内容B「世界の様々な諸地域」の(2)「世界の諸地域」②「ヨーロッパ」を受けて設定したものである。この単元では、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、各州の地域的特色を大観し理解させることをねらいとしている。本単元で学習するヨーロッパ州は、歴史的には長い間世界をリードしてきた地域といえる。中でも大航海時代と呼ばれる15世紀末から、進んだ科学技術や市民社会によっていち早く国民国家を形成したイギリスやフランスなどは、国力を増大させ、政治や経済、文化といった面で世界中に影響を及ぼしてきた。その後、20世紀に起こった2度の世界大戦を経て、世界の政治・経済の中心はアメリカに移った。ヨーロッパ諸国は東西の対立を経て団結を深め、世界への影響力を高めると同時に、地域の平和を図るためにヨーロッパ連合（以下、EUという。）を結成した。

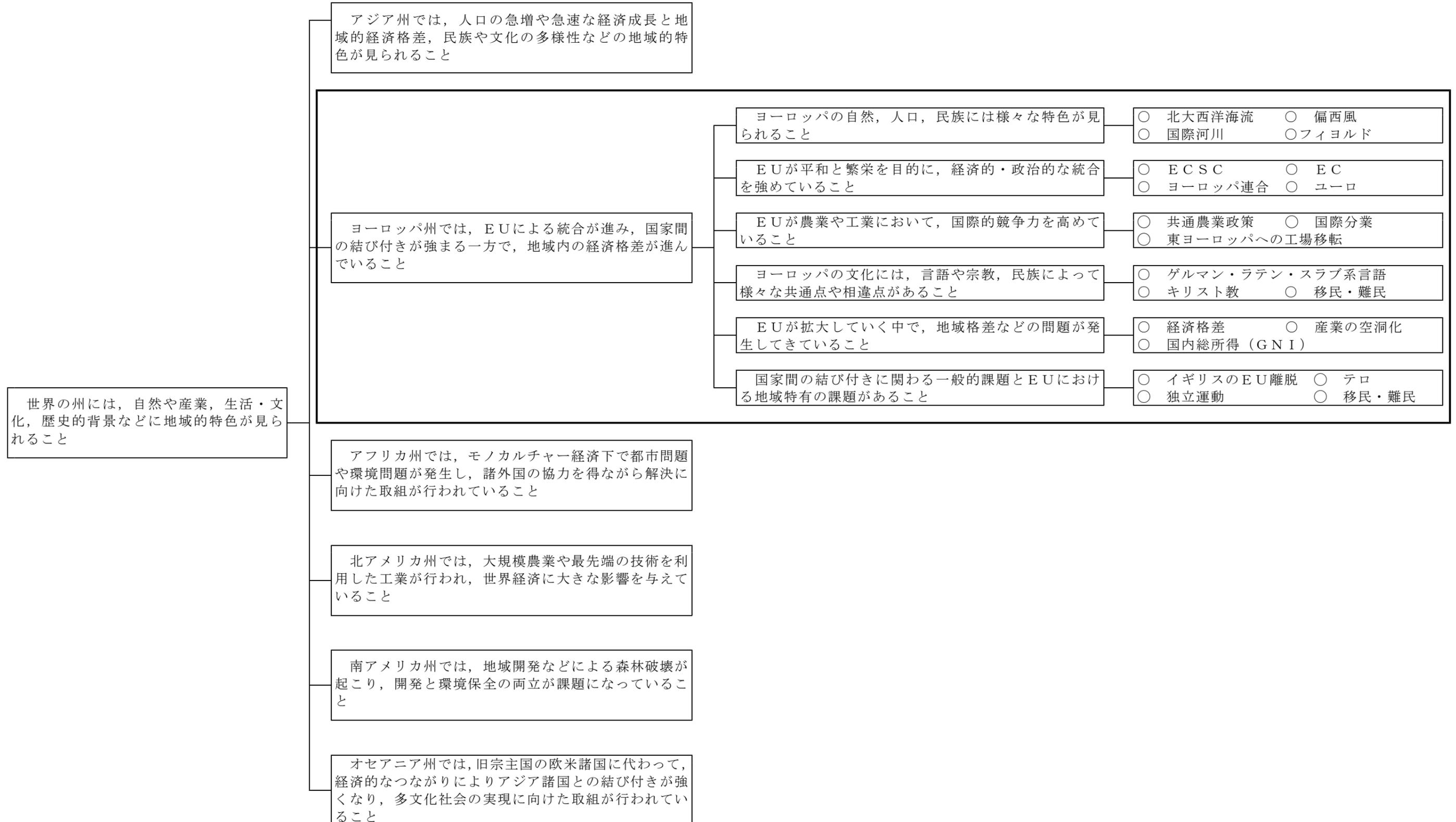
生徒は、「地理の学習が将来役に立つ」と考えている生徒が30名（83%）おり、学習意欲も高い。地理の学習をする時に好きな活動について聞いたところ、「テレビやインターネットの動画を使用すること」27名（75%）、「地図を描くこと」13名（36%）、「統計データを調べること」6名（17%）と答える生徒が多く、「統計データを調べること」について活動内容を吟味する必要があることが分かった。「世界の諸地域」において一番関心の高い州を聞いたところ、「ヨーロッパ州」17名（47%）、「北アメリカ州」15名（42%）と興味を持つ生徒が多く、「ヨーロッパ州」は生徒の関心が高いことが分かった。ニュースを見るときに「世界の各地域のニュースを気にしているか」を聞いたところ、「気にしている」12名（33%）、「気にしていない」24名（67%）と「気にしていない」生徒の割合が半数を超え、さらに世界の諸地域に関心をもたせられる授業をしていく必要性を感じた。

指導に当たっては、「今後、EUはどのような課題を解決しなければならないのか」という問いを設定する。EUで見られる諸課題の要因や影響を、州の地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して捉える学習を通して、ヨーロッパ州の地域的特色を大観させたい。また、鹿児島県中社研の「地域と世界をつなぐ授業の創造」という研究テーマに沿って、身近なものからグローバルに考えさせ、今後学習する大項目「C 日本の様々な地域」を視野に、我が国との比較や関連を図る視点を持った授業づくりを行いたい。まず、世界国勢図会や各種統計データを活用し、ヨーロッパ州の自然環境やEU統合の歴史を読み取っていくことを通して、多面的・多角的な視点でヨーロッパ州内の結び付きと他地域とのつながりについての理解を深めさせていく。そして、ヨーロッパ州における「産業・貿易」「文化・移民」「経済格差」についてに概観させ、EUを構成する国の相互関係や域内の地域間格差の実態を理解させ、ヨーロッパの地域的特色を追究させていきたい。

3 単元の学習内容の構造化

概念的な知識

事実的な知識



4 単元の目標

- (1) 国家間の結び付きを主題として、ヨーロッパ州の地域的特色について関心を高めさせ、意欲的に追究させる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) ヨーロッパ州の産業や貿易などを、自然的条件や社会的条件と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 様々な統計資料を用いて、ヨーロッパ州の地域的特色を読み取り、国家間の結び付きを明確にさせる。
(資料活用の技能)
- (4) 自然や産業、国家間の結び付き、歴史的背景などと関連付けて、ヨーロッパ州の地域的特色を自らが住む地域とかかわりをもたせ、理解させる。
(社会的事象への知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全6時間)

————— 評価 (授業中)

————— 評価 (授業後)

主な評価場面と学習内容 (基本的な知識)	時間	評 価 規 準				地域と世界をつなげて 考える場面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
<p>ヨーロッパ州の自然・人口 ヨーロッパ州の自然・人口の特色を捉える場面</p> <p>○ 北大西洋海流 ○ 偏西風 ○ 国際河川 ○ フィヨルド</p>	1	<p>ヨーロッパ州の雨温図や写真資料から、自然環境や人口の特色について意欲的に追究しようとしている。 【観察】</p>		<p>ヨーロッパ州の地図を描き、それぞれの国の位置関係を把握するとともに、雨温図や統計資料などを読み取ったりまとめたりしている。 【ワークシート】</p>		<p>様々な地図を活用して、ユーラシア大陸の東端の島国・日本に対してヨーロッパ州は大陸と陸続きの半島であり、人の移動がしやすいということを考察する場面</p>
<p>ヨーロッパ統合の歴史 ヨーロッパ州が統合を進めた理由について、資料を基に考察する場面</p> <p>○ ECSC ○ EC ○ ヨーロッパ連合(EU) ○ ユーロ</p>	1		<p>ヨーロッパ統合の理念について、歴史的な視点から考察し、表現している。 【ワークシート】</p>	<p>様々な資料を関連付けて、統合の理由と影響について読み取ったりまとめたりしている。 【ワークシート】</p>		<p>ヨーロッパ連合と同じように、平和と繁栄のために東アジアでも同じような政治・経済の地域統合(東アジア連合)が可能かどうかを考察する場面</p>
<p>ヨーロッパ州の産業・貿易 EUの農業政策や国際分業について、資料を基に考察する場面</p> <p>○ 共通農業政策 ○ 国際分業 ○ 東欧への工場移転</p>	1	<p>ヨーロッパの産業・貿易に関心をもち、意欲的に追求しようとしている。 【観察】</p>		<p>ヨーロッパの産業・貿易の課題について、様々な資料から読み取ったり、まとめたりしている。 【ワークシート】</p>		<p>100円ショップの製品の中には、中国・東南アジア製品だけでなく、東ヨーロッパ製の品物が身近に販売されていることを考察する場面</p>
<p>ヨーロッパの文化と移民 ヨーロッパ州の文化・移民の特色を理解する場面</p> <p>○ ゲルマン・スラブ・ラテン系言語 ○ キリスト教 ○ 移民・難民</p>	1	<p>ヨーロッパ州の写真資料から、文化の特色や移民問題について意欲的に追究しようとしている。 【観察】</p>			<p>ヨーロッパ州が統合を進めることができた背景には、言語や宗教の共通性があったことを理解している。 【ワークシート】</p>	<p>少子高齢化が進み労働者人口が減少している日本において、これから多くの外国人労働者が来ることを考察する場面</p>
<p>ヨーロッパの経済格差 EU構成国内で見られる経済格差について、資料を基に考察する場面</p> <p>○ 経済格差 ○ 国民総所得(GNI) ○ 産業の空洞化</p>	本時		<p>EUが拡大していく中で、経済格差の問題の背景について考察し、表現している。 【ワークシート】</p>	<p>EU構成国内の経済格差について、様々な資料から読み取ったり、まとめたりしている。 【ワークシート】</p>		<p>EUが直面している経済格差についての問題は、日本においても同じように深刻化していることについて考察する場面</p>
<p>ヨーロッパ州のまとめ 今後、EUが解決すべき課題について考察する場面</p> <p>○ イギリスのEU離脱 ○ テロ ○ 独立運動 ○ 移民・難民</p>	1		<p>これまでの学習内容を基にして、これからのEUの課題について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】</p>		<p>これからのEUが解決すべき課題について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 【ワークシート】</p>	<p>ヨーロッパ州における国家間の結び付きによって生じる課題を我が国と比較・関連する場面</p>
全6時間における各評価観点の配当時数		③	2 + ①	3 + ①	2	○数字は、授業後に行う評価の回数を表す。

6 本時の実際

(1) 主 題 「EUは経済格差についてどのような課題を解決していくべきなのだろうか」

(2) 本時の目標

ア EUの拡大に伴う経済格差の課題について、他者と協働して、互いの主張や問題点を検証しながら、資料を基に考察し、適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)

イ EU構成域内の経済格差に関する様々な資料を読み取ったり、まとめたりしている。

(資料活用の技能)

(3) 主題の考察

経済の統合を進め、拡大を続けるEUは、加盟国間の経済格差という課題に直面している。EUの東方拡大は、ヨーロッパの①安定化、②平和の確立、③長期にわたる経済発展にとって重要であるとされている。しかし、2004年以降のEU拡大で、経済水準がEU平均をはるかに下まわる東ヨーロッパの国々が加盟したことにより、国どうしの経済格差はいっそう大きくなっている。近年、多くの西ヨーロッパ企業が、安い労働力や安価な工業用地を求めて、東ヨーロッパ諸国に生産拠点を移転する動きがみられる。社会主義体制の下で経済発展が遅れていた東ヨーロッパ諸国の人々は、より高い賃金を求めて、西ヨーロッパ諸国へ移動する人が増えている。その結果、西ヨーロッパの国々では、安価な労働力の流入による自国民の失業率の上昇、社会保障費の負担増などといった社会不安が高まっている。一方、日本においても経済格差の問題が深刻化している。OECD(2012)によると、日本の相対的貧困率は加盟国34か国の中で5番目に高い数値であり、その数値は年々拡大してきている。鹿児島県においては、貧困状態にある子どもの割合が19.3%と全国で4番目に高く、県による「子どもの貧困対策計画」の策定や、民間団体による子ども食堂の開設が行われている。EUが抱える経済格差の問題をどう解決するかについて考えることは、自分と「世界」「地域(鹿児島)」をつなげて考え、行動できる資質・能力を育む上で、大きな意義があると考えられる。

生徒は、アンケート結果によれば、ヨーロッパと聞いて思いつくものとして、地中海性気候などの温暖な気候21名(58%)、EU27名(75%)、植民地支配・戦争の歴史23名(64%)、など、自然や歴史に関することを多く挙げていた。その一方で、イギリスのEU離脱8名(22%)や移民問題3名(8%)、テロ4名(11%)など自然や歴史以外に関する内容については、あまり身近に感じていないことが分かった。本時の学習の中核である「EU構成国内の経済格差」ということについて記述する生徒はいなかった。これらのことから、生徒のEUに対する認識はテレビなどから得る情報が多く、EU構成国内の状況や他地域との結び付きという視点で考えることが少ないことが分かった。また、「日本は、先進国の中で格差は大きいと思いますか」については、とても思う7名(19%)、やや思う6名(17%)、あまり思わない12名(33%)、全然思わない11名(31%)と日本の格差については意見が分かれることが分かった。

指導に当たっては、EU構成域内の経済格差について、EU統合がもたらす成果と課題などを地域の人々の生活と関連づけて多面的、多角的に考察し、国家の結び付きに関わる課題を捉えさせたい。EUの公平、格差、世代間移動に関する世論調査(2018年4月)によれば、8割を超えるEU市民が、「自国の所得格差は課題である」、あるいは「自国政府は所得格差対策を講じるべき」と感じており、格差に対する問題意識は極めて高い状況である。そこで、ヨーロッパにおいて経済格差が生まれている背景を理解し、鹿児島における格差問題とも関連づけながら、経済格差の課題についてまずは個人で考察させる。その後、グループによる意見交換を行い、クラス全体で意見の可視化を図った後、再度個人によるまとめと振り返りを行う。この学習を通して、経済格差は、他人事ではなく、自ら住む地域にも共通した課題であることを実感させ、世界や地域の課題解決に積極的に関わろうとする社会認識の形成と市民的資質の育成を図りたい。

(4) 本時の展開 (5/6)

主な発問や指示	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<p><問題把握></p> <p>○ ワークシートで、前回までの学習内容を確認しよう。</p>	5分	<p>1 前時までの学習内容を振り返り、単元の課題を確認をする。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<p>1 これまで学習してきた、EUが抱える課題について振り返らせる。</p> <p>2 前時で学習した移民問題から、EU構成域内の経済格差について関心を持たせ、学習課題を確認する。</p>	<p>ワークシート</p>
<p>今後、EUはどのような課題を解決しなければならないのだろうか。</p>				
<p><本質究明></p> <p>○ EUが解決していくべき課題について、自分の考えを発表しよう。</p>	8分	<p>3 EU構成域内の経済格差に関する資料を相互に関連づけて、その課題と理由をまとめる。</p>	<p>3 複数の資料を結び付けさせることで、多面的・多角的に経済格差について考察させる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>資料 EUの経済格差</p>
<p>【資料活用の技能】 他者と協働し、気付いた点について検証しながら、EUのよりよい将来を目指す上での課題について考察し、表現している。</p>				
<p>○ グループ内で話し合ったことを基に、自分の考えをまとめよう。</p>	12分	<p>4 個人で考えたEUの課題をグループで共有し、他者が考える、EUの課題について考察する。</p>	<p>4 グループでの話し合いを基に、新たな視点の根拠に気づかせたり、今ある根拠に新たな論拠を付け加えたりさせる。</p>	
<p>○ EUにおける課題は、他の地域でも見られるだろうか。</p>	10分	<p>5 日本の格差に関する資料と関連づけ、EUと日本の課題の共通性について考察する。</p>	<p>5 日本の地域（鹿児島）に関する経済格差の資料を用いることで、EUの課題を身近に捉えさせる。</p>	<p>資料 日本の経済格差</p>
<p>【社会的な思考・判断・表現】 他者と協働し、互いの主張の問題点や解決策を検証しながら、資料を基に世界と日本をつなげて考察し、表現している。</p>				
<p>○ なぜEUは東方拡大を行ったのだろうか。</p>	8分	<p>6 EUが東方に拡大した背景を考察させる。</p>	<p>6 EU設立の理念である平和と繁栄を想起させ、これからのEUの将来像を捉えさせる。</p>	
<p><洞 察></p> <p>○ EUの経済格差の課題についてまとめよう。</p>	7分	<p>7 EUの経済格差についてまとめる。</p>	<p>7 EUの経済格差について、産業や域内外との結び付きなどに関連付けてまとめさせる。</p>	<p>ワークシート</p>

□ は評価場面, ○ は授業中における評価観点, () は授業後における評価観点